

課題名 いちご産地の活性化

指導対象： 那賀地方いちご生産組合連合会(107名)

1. 取組の背景

県育成品種として、H22年に「まりひめ」、H28年に「紀の香」が品種登録されている。

「まりひめ」は、市場での評価が高く、収量が多いことから、管内の栽培面積の約7割を占める主力品種となっているが、品種特性として、炭そ病に非常に弱く、心止まり株・出蕾遅延株の発生が多く見られ、安定的に生産がしにくい。また、収穫時期によって食味のバラツキ（特に寡日照期や春先の食味低下）の発生が見られる。

「紀の香」は、管内では栽培実態が少なく、現地での栽培上の課題などが把握出来ていない状況にある。

2. 活動内容

〔まりひめ〕

(1) 安定生産技術の推進

ア 炭そ病検定・花芽検鏡の実施

6月から8月にかけて、合計20検体の炭そ病簡易検定を実施した。

8月20日から10月4日の間にJA営農指導員とともに、15回の花芽検鏡を行い、244株を検定し、適期定植の指導（延べ61名）を実施した。

また、花芽検鏡できる技術員の育成にも取り組んだ。

イ 育苗技術の改善推進

4月から9月にかけて、園地巡回により農家個別に育苗改善指導（44回）を行った。

ウ 研修会の開催

8月に予定していた栽培研修会はコロナの感染症拡大の防止のため中止となった。



高設育苗の推進



検鏡できる技術者の育成

〔紀の香〕

(2) 地域に適した栽培技術の確立

管内の栽培実態を把握するために、栽培状況調査（6回）を実施した。



紀の香栽培ほ場

〔スマート農業〕

（３）複合環境制御技術の導入推進

来年度からの複合環境制御技術の実証ほの設置（１カ所）に向け、協力農家の選定を行った。



実証ほ予定ハウス

3. 具体的な成果

〔まりひめ〕

（１）安定生産技術の推進

ア 炭そ病検定・花芽検鏡の実施

親株の炭そ病簡易検定により、潜在感染株を早期に発見し、２次感染による感染拡大を抑制することができた。また、JA 営農指導員へ簡易検定方法の情報を共有することで、重要性について認識できた。

今年度は、８月下旬～９月上旬にかけて気温が下がり、花芽分化がばらついたものの、花芽分化確認後の速やかな定植を推進した結果、出蕾遅延株の発生はほとんど見られなかった。

また、適期定植を推進するためには、検鏡できる技術者の育成が重要であるため、JA 営農指導員と普及指導員を対象に実地による技術養成を行った結果、技術者２名を育成することができた。

イ 育苗技術の改善推進

個別巡回による改善推進を行った結果、１農家が令和３年産の育苗からベンチアップ育苗を取り入れ、育苗方法を改善した。継続的に県単事業を活用した育苗方法の改善に取り組む。

また、炭そ病に、より感染リスクの低い秋ランナーを活用した親株利用について、資料を全戸配付するとともに、導入に向けた現地試験を実施し、育苗方法の改善点などを検討した。

ウ 研修会の開催

研修会は中止となったが、これから推進していく秋ランナーによる親株育成の資料を全戸配布した結果、一部の生産者で試験的に導入された。

〔紀の香〕

（２）地域に適した栽培技術の確立

園地巡回により、春先の種浮き果や頂果の変形果などの課題を把握できた。次期作に向け、対応方法について検討していく。

〔スマート農業〕

（３）複合環境制御技術の導入推進

複合環境制御技術（環境制御装置、CO2 局所施用、日射比例による給液など）を実践している生産者について、実証ほの設置協力を得られ、次年度から生育や果実品質調査

などを実施する予定。

4. 農家等からの評価・コメント

(1) 育苗技術の改善推進（紀の川市A氏）

秋ランナーによる親株育成について、試験的に導入している。挿し苗のタイミングや低温へのあてかた、定植して露天へ並べる時期など、試行錯誤している状況。親株由来の感染リスクを低減できるため、安定生産を実践したい。

(2) ベンチアップ育苗の導入（紀の川市B氏）

導入前は、炭そ病の発生により、定植苗の確保が毎年不安定な状況であったが、ベンチアップ育苗を導入した結果、炭そ病等による株枯れの発生が最小限に抑えられた。

5. 指導員のコメント（那賀振興局農業水産振興課・主査・奥野直行）

(1) 花芽検鏡の実施による適期定植指導

まりひめについては、その品種特性（出蕾遅延株の発生）から、花芽検鏡により花芽分化を確認してから定植することが必須であり、引き続き関係機関と協力しながら指導していく。

(2) 育苗技術の改善推進

今後もまりひめを栽培する生産者の増加が見込まれていることから、ベンチアップ+雨よけ育苗を推進していく。底面給液については、給液管理が安定する技術となれば導入を推進する。

6. 今後の展開等

- 1) 適期定植の推進（花芽検鏡による適期判断と熟練技術者の育成）
- 2) 高設育苗の推進（健全育苗技術の普及）
- 3) 紀の香の安定生産に向けた栽培状況調査（栽培上の問題把握と改善）
- 4) 複合環境制御技術の導入実証（複合環境制御による収量アップと食味向上）